

# 銀器の文化や歴史を積極的に発信 “知ってもらう”ことで未来につなげる

東京銀器 有限会社 日伸貴金属

日伸貴金属は江戸時代からの技を受け継ぐ東京銀器の工房である。“銀師”として12代目となる上川善嗣さんは「製造のプロセスを見てもらうことで、銀器を身近に感じてもらいたい」と語る。その思いはどこから来るのか。



製作体験もできるバングル



銀器ならではの光沢が美しいコップ

東京銀器 有限会社 日伸貴金属

職人: 上川善嗣

所在地: 東京都台東区三筋1-3-13

伊藤ビル1階

T E L : 03-5687-5585

E-mail : info@nisshin-kikinzoku.com

U R L : <https://www.nisshin-kikinzoku.com>

しろがねし  
銀師（銀細工職人）の上川善嗣さんは、作品を作る傍ら、ワークショップを開き、その様子や作品をSNSで発信して、伝統工芸品としての銀器の魅力の周知に力を注いでいる。イベントにも積極的に参加し、進んで普及活動を行う理由をこう語る。

「伝統工芸品が店舗にただ置かれているだけでは大量生産品との違いが分からず、値段も高いために選んで貰えない。文化や歴史的背景を知り日常

的に使うことでその良さを感じて貰うことが大事」。ワークショップで製作するのは、バングルや指輪など生活の中で楽しめるものだ。自分で作ることで銀器への理解が深まり、職人の作品に興味が変わり、ひいては伝統工芸品の購買につながると考えている。

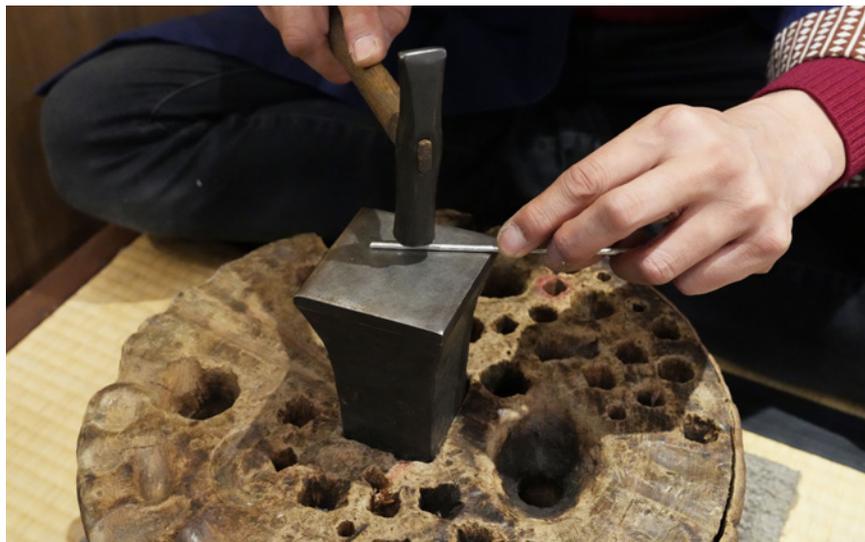
ワークショップでは作り方の過程に加え、銀器の文化や歴史なども説明する。言語化・見える化することが興味・理解につながると思うからだ。



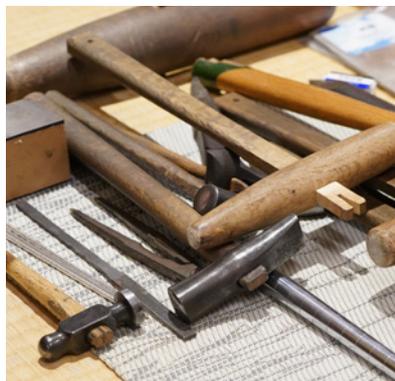
一枚の純銀の板が鍛金（金槌で叩いて成形）され、美しいコップになる



金槌で叩いてならし、面を平らにしていく



木枠の上に鉄製の当て台を置き、その上で銀を叩く



職人道具の金槌や木槌



木枠には用途に応じた当て台を入れるための穴が開いている



気さくで話し上手な上川善嗣さん

「職人があれこれ説明するのは野暮という見方もあろうし、全部見せるのがいいことではないかもしれない。でもこういうふうに作っていると伝えるのは職人としての責任でもある」と。

職人ステップアップで活用法を学んだ SNS の発信も軌道に乗り、Instagram のフォロワーは 1,200 人を超えた。英語でも毎日発信し、海外から訪れたワークショップ体験者についても発信し

ている。最近は伝統工芸に興味をもつ学生と連携してイベントでレクチャーしたり、沖縄県や秋田県、島根県石見など銀の文化が根付く地域との新たな交流に向けて活動を行っている。地域の特色や共通点から見えてくる銀の文化の奥深さに自身も啓発され、活動の幅はますます豊かに広がりを見せている。銀師として、日伸貴金属の 12 代目として上川さんの今後の活躍が期待される。